

二十年に一度

紐解かれる歴史絵巻

参加地区芸能紹介

4月10日(土)から12日(月)にかけて、20年に一度の銚子大神幸祭が行われます。

これは、東大社(東庄町)が主体となつて、雷神社(旭市)、豊玉姫神社(香取市)の三社で行う式年神幸祭です。令和4年(1102年)に始まり、九百年の歴史を持つ伝統行事です。

各神社の神輿を中心として、大勢の氏子が旗や威儀物を掲げてお供する道のりは30キロにも及びます。また、その間に設けられた15の関所では氏子の里人による芸能が披露されます。全国屈指の大神幸を見ようと集まる見物客は数万人にも上ります。

東大社のお供として、東庄町からは、羽計、石出、栗野・

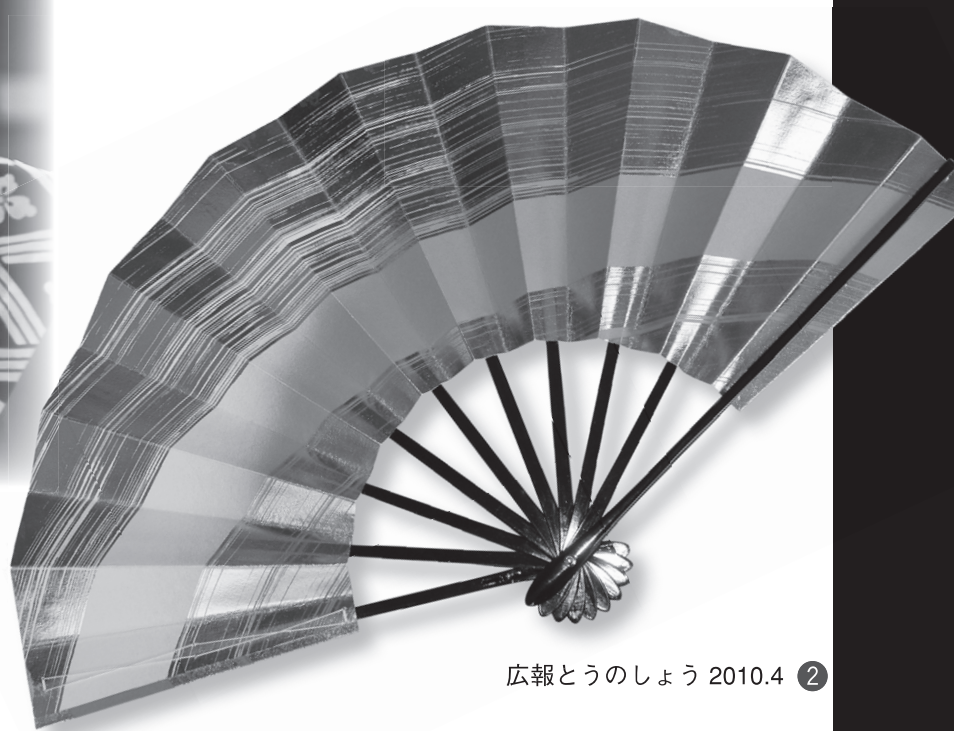
八重穂、東今泉、今郡の6区(5団体)がそれぞれの地域に伝わる芸能を披露します。

また、旭市の倉橋は弥勒三番叟、銚子市の宮原は下座手踊りを披露します。

芸能を披露する各地域は、昨年から入念に準備を進め、本番に向けて芸に磨きをかけてきました。

3月27日(土)・28日(日)には、地元での芸能披露が小学校の体育館などで行われました。また、東大社と宮野台運動公園において4月4日(日)に「足揃え」、17日(土)には「笠崩し」が行われます。

各地域に受け継がれ、20年に一度花開く、芸能の見所と参加者の思いを合わせて紹介します。





羽計

雲助・大名行列

荷物宰領役 雲助
使者 鉄砲隊
弓隊 先箱
大鳥毛 小鳥毛
立傘 台傘
御徒歩 草履取り
傘回し 大殿・小殿
勘定奉行

使者・荷物宰領役
古式ゆかしい口上と動作に注目。隙のない振る舞いと視線で、関所の通過を願う出る。

雲助
殿の荷物を運ぶ「雲助」。畳一畳ほどもある大きな荷物を左右に揺らしながら進んでいく。独特の掛け声と大胆なメーキャップや衣装が特徴。荷物を運びながら安産守の麻を売り歩く。

大名行列
全国でも類のない芸を行いがら進む大名行列。雲助とは一転し、厳かな列が連なる。

◇奴(やつこ)
箱を担いだ二人が一糸乱れぬ動きで荷物を運ぶ先箱、鳥毛や傘は重く長い棒を見事に操る。波をうつようなゆったりとした動きで静寂の中を進む行列が、

見るものを歴史の世界へいざなう。「エー、ホー、エン、ヨレー」という先箱の掛け声で始まる芸は見もの。草履を放り投げては取る草履取り。長い傘を回したり、バランスを取る御手傘。棒の受け渡し。風をよみながら見事な技を繰り広げる。

鉄砲隊・弓隊・御徒歩
少年少女が揃いの着物で「シー、シー」(下に、下に)と繰り返しながら一歩ずつ進む。羽織袴の男達も同様に行列して、時代絵巻を再現する。

勘定奉行
大きなそろばんや下駄を乗せた馬にまたがり、ユーモラスな話芸で観客を楽しませる勘定奉行。馬子とのやりとりを観客は思わず吹き出す。おもむろに取り出す予想外の小物もお楽しみに。

師匠の目



羽計使者師匠 田谷 富俊さん
とみとし
優秀な弟子は99点の仕上がり。あとの1点は本番で修行。ぜひ本番で満点にしてほしい。使者のトップを行く羽計のプライドをかけて、見てくれる人の期待に応えてほしい。

弟子の心



羽計郷 使者 越川 哲男さん (35歳 公務員)
皆そろって無事に終われるよう、いいものにしたい。

羽計郷 荷物宰領役 高安 慎吾さん (35歳 会社員)
自分の役をしっかりと務めたい。

師匠の目



羽計先箱師匠 田谷 弥さん
わたる
練習を重ね、まとまってきたので80点。箱は合ってきたが、ぴったりと合わなくてはいけない。腰の下げ方がもう少し。人目がある本番を重ねていくと進化していくと思う。

弟子の心



先箱

高木 祐次さん (31歳 会社員)
やるからにはしっかりやりたい。

田谷 仁さん (26歳 農業)
やり始めて責任感が出てきた。一致団結して取り組めた。

山内 政幸さん (31歳 看護師)
一生懸命頑張ります。

越川 康宏さん (31歳 運転手)
箱がずれなければ大丈夫。

師匠の目



羽計傘回し・草履取り師匠 田谷 正宏さん
まさひろ
仕事の都合で練習時間が少なかったため、完璧というのは難しい。しかし、皆真面目に練習した。体格もさまざまなので、その個性を感じながら芸を堪能してほしい。

弟子の心



傘回し

野口 和人さん (29歳 造園業)
ばあちゃんにいいところを見せたい。

越川 雄太さん (18歳 会社員)
この祭りを続けられるよう頑張りたい。

草履取り



越川 直行さん (32歳 会社員)
親子3代草履取り頑張ります!

平塚 嘉将さん (18歳 会社員)
思い切って恥のないように頑張りたい。

勝野 尚哉さん (28歳 会社員)
自分にできることを精一杯やりたい。